

つまり、「大無量寿經」の真実が、印度・中国日本と二千年にわたつて七高僧がたによつて伝えられてきたみ教えに、いまたまたま遇いえた伝えられらるてきたみ教えに、いまたまたま遇いえた「俗」(生活者)のかわりなどあらうはずはありません。すべてみなこの歎きつた五濁の時に心に、ただこの高僧の説を信ずべし」とよびかけられるのです。

まりがないそのありさまを「無辺の極濁惡」とあらわされているのです。

要するに南無阿弥陀仏の如米さまの、まさしきおめあては、ほかでもない「無辺の極濁惡」である私親鸞にあつたのだといだいておられるのです。

親鸞さまにとつて「真実」といふ「如米」といふものは、もつとも真実にとおい「極濁惡」を、如来からいぢばんとおいところを逃げまわつてゐるわたし極濁惡人を、真実のうちにからめとり如來のいのちのなかに生きかえらすことにおいて真実であり如米なのだ。そしてその真実の如米のみ極濁惡をからめ取ろうとするはたらきが、いま念仏となつてきこえていくださるのだといだかれているのです。

親の二人の菩薩)さまをはじめとする七人の高僧  
さまがたという意味です。  
また「唯可信斯高僧説」(たゞこの高僧の説を  
信すべし)といわれている高僧というのも七高僧  
さまのことです。

したがつて、この四行は、いままでの正信偈  
のうち、「印度西天」以降にうたわれていた七高  
僧のみおしえをたよえた部分のしめくくりです。

「弘經の大士・宗師等」というのは、わだした  
唯可信斯高僧説　このみさとしを信すべし  
道俗時衆共同心　世のもろびとよみな共に  
外傳無邊極濁惡　われらを教えすべくいさす

# 勝林寺々報

十月二十九日 菲  
湯 鮑  
口  
の  
ぶ  
様

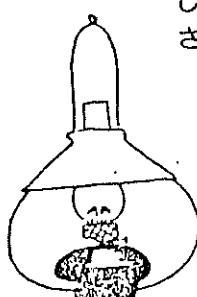
A black and white line drawing of a tree trunk with several birds perched on its branches. The tree has a central trunk with two main branches extending to the left and right. Each branch further divides into smaller twigs. Six birds are depicted, each with a small tail and a dark body, perched at different points along the branches.

生死の苦酒はとりなし  
ひさしくしづめるわれらを  
弥陀弘誓の船のみぞ  
乗せてかならずわたしける

した。  
罪濁のくらしのなかにおぼれ沈もうとしている  
私に、悪菜のこころで真実からにげまわつていて  
私は、おいかけ手をさしのべて拝めとらうとして  
くださるはたらきがお念佛でありそれを「拯」と  
いう字であらわされたのであると思います。  
また「拯濟」の「濟」という字も同じく「すく  
う」という意味の字ですが、「濟」はまた「川や  
海をわたしすくう」(濟度)という意味や「濁」  
た水を滑くすます」(濟は滑)という意味があ  
と辞書には出ております。  
難波海といわれるすくいがたい時代に生きて  
る私をすくい取り如來清淨真実のいのちに生れ  
わらせようというのがお念佛のこころです。  
親鸞さまはこの正信偈をうたいおわるにあた  
て、あらためていまさらながら如米さまのおよ  
声・高僧がたの教えのこころを、わがみのうえ  
こういただかれいただかれお念佛のよろこ  
をこのように私たちにおすすめくださるのです

二日	久美浜耕雲寺報恩講説教
三日	同
四日	山田清務氏宅法事
八日	安芸教区同朋運動研修会講師
十日	関川忠司氏宅法事・十六夜会・玉日 会

人の  
あさはかさばかりをみている  
わたしの  
あさましさ



## 私のお念仏

宮嶋千秋

みのりの秋

よく耳にすることばです。

秋になりますと、わたしたちの生活のさゝえとなつている植物も豊かですばらしい果実を結んでくれます。

なかでも稻は、そのみのりでわたしたちの命を守り、そのすばらしい成長の姿でわたしたちの生きたの手本となつてくれます。

わたしはいま、自分には「みのり」というものがはたしてあるのだろうかと考えさせられました。ううことなのだろうかと考えさせられました。

一つには、子を育てるごとに、子孫のために財産をつくることも、また他人のよろこぶようなことをすることもたしかに「みのり」であるのかもしれません。

わたしたちの勝林寺では、ご院家さまのお忙しいスケジュールのなかで、毎月二十五日の夜には「みのりを開く会」が催されております。おはずかしいことですがなかなかお参りができません。

つとめてお怒りをさせていたゞきたいものです。この会のお聴聞を通じて「おみのり」とは「与えても与えてもなくならない、またトラブルの種になるようなことはない、人には取られることのない、自分が永久に持ちつけられるもの」といっております。

わたくしは、もしもわたしのまわりの植物が、わたくしのところを持つていたらどうなるだろうかと思います。おそらく「あんなことはいや。こんなことはいや」と数々の文句をつけてなかなか実生活することができなくなるにちがいありません。ちょうどほめるとすぐ有頂天になつたり、ちょっと思つてうようになつぱなころです。

◇十月二十八日、午前中の雨があがつて待望の勝林寺弘法ソフトボール大会出石町民グラウンドで開かれました。四チーム熱戦の結果、出石チームが優勝となりました。

「第十回別府城七輪恩賜」が弘法・弘別共催で開かれました。マイクロバスで招徳されたおとしよりを中心百二十名がつどつての招徳もありお正月恒例のおと法要と組合せられていました。十時ごろおわった。中にソフトボールの表彰式もあつた。

便婦便り

仏・仏・仏

◇十月十九日、大阪城ホールで催された西本願寺弘法大集会の集いに勝林寺弘法より十三名の会員が出席した。二十一世紀へむけての前進をということもあつて大会全休までのすがたは全く違つた新企画に参加者一同あらたな感動をうけた。◇十月三十一日、神戸ポートピアホテルで開かれた弘法創立百五十周年兵庫教区式典・名譽総裁感謝の集いに勝林寺弘法から坊守正義副会長食事が出席した。記念講演の構はが、名譽總裁様のおとば、木曜寺総裁様のお話などを書きみのりある大会であつた。

## 報恩講

「報恩講」というのはいわば報恩聖人さまの祥月命日のご法要です。

そのときから三十三年後、聖人のひまごに当る本願寺第三代の當加七人が京都市山大谷にあつた本願寺で聖人の三十三回法要を「報恩講」としておつとめになつたのがそのはじまりです。

一つには眞實の宗教をはつきりと教えてくださつた聖人のお徳をたゞえるため。二つにはまたお念佛の集いに勝林寺弘法より十三名の会員が出席した。

いつも私と共にいてくださる聖人のめぐみをしたために「報恩講」をおととめするのだと覚悟上には聖人にき後々までもお詫びのなかで「一人い

てよろこべば一人と思ふ。その一人は親鸞」と、

いつも私と共にいてくださる聖人のめぐみをしたために「報恩講」をおととめするのだと覚悟上人はおつしやっています。

それ以後年々歳々、本山は申すまでもなく守りました。

ただ、祥月命日にはご本山で「ご正月報恩講」が一回開催されます。村村からは年々代表者を

そのご正月にお参りさせました。そこで寺々やご門徒ではご正月の前に「お取り越し報恩講」として多くは十一月十二月にとめています。

わたくしらの宗派ではいま新暦によみかえてござだい年にはご本山で「ご正月報恩講」がつります。

本山では一月十六日までの一週間「ご正月報恩講」がつります。

わたくしらの宗派ではいま新暦によみかえてござだい年にはご本山で「ご正月報恩講」がつります。

本山では一月十六日までの一週間「ご正月報恩講」がつります。

わたくしらの宗派ではいま新暦によみかえてござだい年にはご本山で「ご正月報恩講」がつります。

本山では一月十六日までの一週間「ご正月報恩講」がつります。

本山では一月十六日までの一週間「ご正月報恩講」がつります。

本山では一月十六日までの一週間「ご正月報恩講」がつります。

本山では一月十六日までの一週間「ご正月報恩講」がつります。

本山では一月十六日までの一週間「ご正月報恩講」がつります。

社奉き

みがき奉仕

V

を十一日（日）

午後

七時

から

ご都合のつくかたはどうぞ

参加ください

例年通り「報恩講」前の△お

みがき奉仕△を十一日（日）

午後七時からです。

お

み

が

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

が

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

例年通り「報恩講」前の△お

みがき奉仕△を十一日（日）

午後七時からです。

ご都合のつくかたはどうぞ

参加ください

お

み

が

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

例年通り「報恩講」前の△お

みがき奉仕△を十一日（日）

午後七時からです。

ご都合のつくかたはどうぞ

参加ください

お

み

が

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

例年通り「報恩講」前の△お

みがき奉仕△を十一日（日）

午後七時からです。

ご都合のつくかたはどうぞ

参加ください

お

み

が

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

例年通り「報恩講」前の△お

みがき奉仕△を十一日（日）

午後七時からです。

ご都合のつくかたはどうぞ

参加ください

お

み

が

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

例年通り「報恩講」前の△お

みがき奉仕△を十一日（日）

午後七時からです。

ご都合のつくかたはどうぞ

参加ください

お

み

が

お

み

お

み

お

み

お

み

お

み

お